



# 佐土原ロータリークラブ週報



ロータリーを  
祝おう  
100年の歩み

会 長：林 厚 雄	会 計：柳 田 光 寛
副 会 長：岩 切 正 司	会報委員長：宮 原 建 樹
幹 事：藤 堂 孝 一	

2004-2005 年度 R I テーマ

第 873 回 平成 17 年 3 月 9 日 (水)

### 本日のプログラム

1. 点 鐘
2. 食 事 の 時 間
3. ロータリーソング  
「手に手つないで」
4. 四つのテストの唱和
5. 会 長 の 時 間
6. 幹 事 報 告
7. 会 員 卓 話
8. 点 鐘

第 872 回の記録 平成 17 年 3 月 2 日 (水)

☆会長の時間 会長 林 厚雄 君

早いもので、今日は3月の第一週目になりました。しかし今年3月になっても寒さが続いています。今週の末には、全国的に寒くなり、雪も降るそうです。これも地球温暖化による異常気象でしょうか？

先週の9クラブの合同例会に出席有難うございました。宮崎クラブの段取りで、また初めての合同例会でしたが、大成功に終えることができました。

今日は会員増強についてお話をいたします。菅生浩三 ロータリーの随想からご紹介いたします。

若い人々を会員として確保することの大切さ、と題して、どのような団体であれ組織であれ、時間の経過とともに会員の高齢化が進み、新たに会員を補充しない限り、次第に会員は減少して、遂には消滅することとなることは申すまでもない。そこで、社会に開かれた団体や組織の場合、会員の補充、なにか若く若い会員の継続的な入会の確保が、その存続発展のために必要不可欠となる。

ポール・ハリスが最初のロータリー・クラブ、後年のシカゴ・クラブを創設した時の年齢は、36歳であった。

しかるに、今日わが国のロータリー・クラブの会員の平均年齢は、多くが60代で、しかもその後半と云った現況であり、しかも若い人々に声を掛けても、なかなか入会しようとならない傾向にあると云うのである。これは由々しい事態であり、わが国のロータリーの将来のため、まことに憂慮すべき状況といわなければならない。

その原因として、ロータリーに魅力がないからだと云うか、不景気だからと云うか、若い人々は大変忙しいからと云うか、ロータリーは金がかかりすぎるからと云うか、色々言われている。

私も、そのすべてが正しいと思う。しかし、いくら詳細に原因を論じてみても、それだけでは少しも解決にも役に立たない。若い人の入会は増えない。では、どうすればよいのか。

私は、先日京都のあるクラブに伺った。200人を超える大クラブであったが、例会場に行った途端、空気がワーンと鳴っているように感じた。活発なのである。そしてたまたま5人の新しい会員の入会式が行われた。それが皆30代後半から40代前半の人たちであった。紹介者も、全員が30代から40代であった。

私は正直びっくりした。いまだこんなクラブがあるのかと。やればできるのだなと思った。一人や二人の若い人をポツンと入れるだけでは駄目であれば三人や五人と集団的に入れていく。若い人々は大変忙しいので、色々な活動はさせおいて、せめて週一の例会だけは、全員出席して貰うよう努力する。会費も当分の間減額する。

例会では、ロータリーでの理解を深めて貰う為、既存の会員が一丸となって努力する。

これらの努力がサービスの理念というロータリーの存在意義の理解に及べば、今日の数々の社会的障害を乗り越えて、若い会員をはかることができる。

そして、その若い会員たちが、次の若い会員たちを入会させていく、といった具合である。

例会場：石 崎 浜 荘 0985-73-1913 事務局：〒880-0303 宮崎郡佐土原町東上那珂 10255 齊藤美喜代  
例会日：毎週水曜日 12:30 ~ 13:30 TEL: 0985-30-5766 FAX: 0985-30-5788

ロータリーにおいて会員増強は永遠の課題である。しかし世界のロータリアンの数は1990年を境にして減少の道をたどっている。殊に21世紀になってその構造疲労がいよいよはっきりしてきたのです。

世界的な傾向として、クラブ数、会員数とも増殖していくのは発展途上国であって会員減が多いのが、日本、アメリカ、メキシコ、ブラジルだということである。

この100周年を迎えるロータリーの構造疲労をこれ以上進行させないようにするにはどうするべきかを言わせていただくと...

- 1) クラブ奉仕、職業奉仕未分化の状態であったシカゴクラブ創立初年の心の原点のもう1度立ち返って、そこから再出発すること。  
ポール・ハリスに、どうしてロータリークラブなんてもの考えたのか、と聞いたところ、彼はぼつりと一言、「淋しかったからだよ」と答えた、と伝えられています。  
それがロータリークラブ結成の動機だったのです。一言で言えば、「職業上お互いに信頼し合って取引できる仲間のクラブ」、と言うのが、いつわらざる創立時の姿です。
- 2) BSE (牛海綿状脳症)・KHF (鯉ヘルペスウイルス)・豚コレラ...  
食品業界は大荒れだが、こうなったのは何が原因か? これはロータリーの増強拡大運動のあり方を考える上で貴重な教訓になる。これはすべて安易に効果的に金を稼ごうとする経済至上主義の破綻です。植物動物の牛に共食の骨肉粉、雄鳥雌鳥ひなたで追いかけっこしているはずの鶏を数十万羽も人工照明の鶏舎に押し込めて、抗生物質混合飼料...  
(そんな牛肉や鶏・タマゴを我々はあまり知らずに食べてきたのです)  
ロータリーも過密飼育の鶏舎みたいになっていないでしょうか?
- 3) 米国の社会学者ダニエル・ベルが現代国家を評して「大きな問題を扱うには小さ過ぎ、小さい問題を扱うには大き過ぎる」と言ったそうだが、これは国際ロータリーにも当てはまる。  
ロータリーはあくまで「1隅を照らす」運動です。ところがそれを怠って会員の数と財団の資金増大にしか目が届かなくなったところに問題があります。  
財産をたくさん蓄えようとするれば、必ずその財産ばかりかそれ以上に一番大切な人間性まで失うことになる。

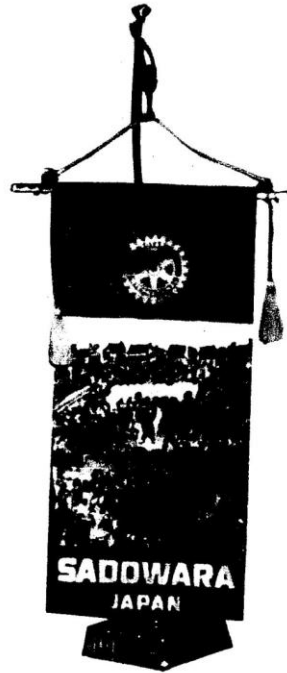
「多く蔵すれば必ず厚く失う」

ロータリーはどこへ行く

ロータリーはどこへ行く...昼飯を食べに行く  
(バーナード・ショー)

今はそんな冗談を言っている時ではありません。真剣にロータリーの明日を考えましょう。

以上は、合同例会の卓話資料の一部です、詳しくはその資料を是非ご覧下さい。



次 回 予 告

☆3月9日(水)  
ゲスト卓話

☆3月18日(水)  
フォーラム  
「会員増強について」

☆3月23日(水)  
特別休会

■ 四つのテスト

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か

3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか